

第3回小豆試験研究情報交換会の 開催について

(公財) 日本豆類協会

日本豆類協会では小豆の試験研究の一層の発展に資するため、第3回小豆試験研究情報交換会を、平成29年8月9日～10日に（地独）北海道立総合研究機構十勝農業試験場の協力を得て開催いたしました。前回は平成27年8月に十勝農業試験場で開催したところであり、定期的な開催を通じ小豆関係の試験研究関係者の連携強化と研究推進に重要な役割を果たしているところです。今回は、当協会の試験研究事業を通じて小豆の試験研究に取り組んできた北海道立総合研究機構、石川県立農林総合研究センター、京都府立農林水産技術研究センター、兵庫県立農林水産技術総合研究センター、岡山県農林水産総合センター農業研究所の各試験研究機関に加え、(株) 虎屋基礎研究室からも参加いただきました。

今回の情報交換会では、前回（平成27年）以降において各道府県において取り組んでいる試験研究の実施状況について報告があり、それぞれについての活発な質疑応答が行われました。

その中で、北海道からは「エリモショウズ」に落葉病抵抗性を導入した「エリモ167」の育成に成功し、今後は「エリモショウズ」および「きたおとめ」の全てを本品種に置き換えることを目指していること、1980年代に道央などの転換端畑を中心に甚大な被害をもたらしたことのあるアズキ萎凋病抵抗性DNAマーカーを開発したこと、さらには国産初となるサラダやスープに適した赤いんげんまめ「十育S3号」を開発したこと等についての報告がありました。

また、岡山県からは、実需者の要望が強い備中白小豆の新品種として「ADZ1号」が育成され普及に移されていること、兵庫県からは大納言小豆のブランド化を支援するための研究を進めていること、京都府からは丹波大納言の機械化体系栽培における安定多収栽培技術の確立のための研究を進めていることと、京都府における大納言系小豆振興のために機械収穫適性、耐湿性、俵型子実形状等の形質獲得が課題となっていることの紹介、石川県からは能登大納言小豆の早播摘心栽培の研究を進めていること等、それぞれ報告がありました。さらには、民間機関から唯一参加いただいた(株) 虎屋からは、自社の白小豆の紹介とその取り組みについての情報提供がありました。

北海道に限らず、岡山県、石川県、京都府、兵庫県においても地域の和菓子事業者等と連携し、地域振興を図っていこうとする取り組みがみられるところですが、一方でそのための研究人材は限られており、本会議のように、全国の小豆の研究者が一堂に会して、最新の小豆の研究成果について意見を交換するような機会が極めて重要であることを再認識させられました。このような集まりに限らず、小豆の研究者が情報交換・共有できる体制の充実に努めていきたいと考えています。



小豆試験研究情報交換会



小豆試験研究圃場視察